Also available daily on the internet!!
http://qt.swim.org/user_dir/japanlife/user_print_web.php

Devotional Guide

ディーヴォガイド

Nagoya Glorious Chapel

2025.3.24-30

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

Family Worship

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

Cell Group Guide

セル　ガイド

①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
③ディボーションの分かち合いをします。
④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。 いつもの家族でいいのです。

①この１週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
②この１週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）１つだけ。
③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
④互いの必要のために祈りましょう。

L T G Guide

ＬＴＧ ガイド

①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（２～３つ）

②１週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。

③礼拝メッセージの分かち合いをします。
　礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）

④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

Nagoya Glorious Chapel

24日　月曜

民数

4:21 【主】はモーセにこう告げられた。
4:22 「あなたはまた、ゲルション族の頭数を、その一族ごと、氏族ごとに調べ、
4:23 三十歳以上五十歳までの者で会見の天幕で任務に当たり、奉仕をすることのできる者をすべて登録しなければならない。
4:24 ゲルション人諸氏族のなすべき奉仕と運ぶ物は次のとおりである。
4:25 幕屋の幕、会見の天幕とその覆い、その上に掛けるじゅごんの皮の覆い、会見の天幕の入り口の垂れ幕を運び、
4:26 また庭の掛け幕、幕屋と祭壇の周りを取り巻く庭の門の入り口の垂れ幕、それらのひも、およびそれらに用いるすべての用具を運び、これらに関係するすべての奉仕をしなければならない。
4:27 ゲルション族のすべての奉仕、すなわち、彼らが運ぶすべての物と彼らのすべての仕事は、アロンとその子らの命令によらなければならない。あなたがたは彼らに、任務として、彼らが運ぶ物をすべて割り当てなければならない。
4:28 以上がゲルション人諸氏族の会見の天幕における奉仕で、彼らの任務は祭司アロンの子イタマルの指揮下にある。
4:29 メラリ族について、あなたはその氏族ごと、一族ごとに、彼らを登録しなければならない。
4:30 三十歳以上五十歳までの者で、務めに就き、会見の天幕の奉仕をすることができる者たちをすべて、登録しなければならない。
4:31 会見の天幕での彼らのすべての奉仕の中で、彼らが任務として運ぶ物は次のとおりである。幕屋の板、その横木、その柱とその台座、
4:32 庭の周りの柱と、その台座、杭、ひも、これらの備品と、その奉仕に使うすべての物である。あなたがたは、彼らが任務として運ぶ備品を、名を挙げて割り当てなければならない。
4:33 これが会見の天幕でのすべての仕事に関するメラリ人諸氏族の奉仕で、これは祭司アロンの子イタマルの指揮下にある。」

ケハテ族が証の箱や祭壇の器具を扱ったことからすると ゲルション族が携わるものは周辺的なものに感じます。しかし、これも主から課せられたものであり、それゆえに尊いのです。ですから私たちが第一に問われるのは、何の奉仕を担うかではなく、どのように奉仕に取り組んでいるか…なのです。

その点において、「アロンとその子らの命令によらなければならない。…指揮下にある。」と主が言われたことには真理があります。主に従っている、信仰がある…と言っていながら、人には従えない思いも、私たちの内にあるからです。人間は完全ではありませんが、その不完全なものさえも用いて、ご計画を進められるのが完全な神です。

ゲルション族は「アロンとその子ら」に従いましたし、アロンたちは働き人に仕事を任せました。互いに不完全な者に主がどのように働かれるのかを、見きわめることができるのが、成熟した信仰者です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

25日　火曜

民数

4:34 そこでモーセとアロンと会衆の上に立つ族長たちは、ケハテ族をその氏族ごと、一族ごとに、
4:35 三十歳以上五十歳までの者で、会見の天幕での奉仕の務めに就くことのできる者を、すべて登録した。
4:36 その氏族ごとに登録された者は、二千七百五十人であった。
4:37 これはケハテ人諸氏族で登録された者であって、会見の天幕で奉仕する者の全員であり、モーセを通して示された【主】の命によって、モーセとアロンが登録した者たちである。
4:38 ゲルション族で、その氏族ごと、一族ごとに登録され、
4:39 三十歳以上五十歳までの者で、会見の天幕での奉仕の務めに就くことのできる者の全員、
4:40 その氏族ごと、一族ごとに登録された者は、二千六百三十人であった。
4:41 これはゲルション人諸氏族で登録された者たちで、会見の天幕で奉仕する者の全員であり、【主】の命により、モーセとアロンが登録した者たちである。
4:42 メラリ人諸氏族で、その氏族ごと、一族ごとに登録され、
4:43 三十歳以上五十歳までの者で、会見の天幕での奉仕の務めに就くことのできる者の全員、
4:44 その氏族ごとに登録された者は、三千二百人であった。
4:45 これはメラリ人諸氏族で登録された者であり、モーセを通して示された【主】の命により、モーセとアロンが登録した者たちである。
4:46 モーセとアロンとイスラエルの族長たちが、レビ人を、その氏族ごと、一族ごとに登録した登録者の全員、
4:47 三十歳以上五十歳までの者で、会見の天幕で労働の奉仕と運搬の奉仕をする者の全員、
4:48 その登録された者は、八千五百八十人であった。
4:49 彼らは【主】の命により、モーセを通して任じられ、それぞれその奉仕とその運ぶ物を受け持った。【主】がモーセに命じた、主によって登録された者たちである

Bible Reference 聖書の記述

戦士の数は民族の力であり、勝利のためには重要な要素です。当然1人でも多く欲しいものです。私たちの勝利または成功のために、戦士のように重要な要素は色々あるでしょう。財力、情報、人脈、労働力、時間などなど…。

しかし主はイスラエルの戦士の数を減らしてでも、レビ族を礼拝の任にあたらせました。神を礼拝する信仰がなおざりになったらなら、神がイスラエルに勝利を与える意味がなくなるからです。

同様に私たちも、成功のためには少しでも重要要素を多くしたいし減らしたくないと思うかもしれません。しかし勝利を与えてくださるのは主であることを知らなくてはなりません。

イスラエルの戦士約64万人のうち、レビ人は約8600人です。これは法外な比率ではありません。主は無理なことを要求なさる方ではないのです。見える者を信じて主の勝利を失うことのないようにしましょう。全能の主への信仰を表しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

26日　水曜

民数

5:1 【主】はモーセにこう告げられた。
5:2 「イスラエルの子らに命じて、ツァラアトに冒された者、漏出を病む者、死体によって身を汚している者をすべて宿営の外に追い出せ。
5:3 男でも女でも追い出し、彼らを宿営の外に追い出し、わたしがそのただ中に住む宿営を、彼らが汚さないようにしなければならない。」
5:4 イスラエルの子らはそのようにして、彼らを宿営の外に追い出した。【主】がモーセに告げられたとおりにイスラエルの子らは行った。
5:5 【主】はモーセにこう告げられた。
5:6 「イスラエルの子らに告げよ。男にせよ、女にせよ、他人に何か一つでも罪となることを行って【主】の信頼を裏切り、後になって、その人自身がその責めを覚えたときは、
5:7 自分が行った罪を告白しなければならない。その人は償いとして総額を弁償し、それにその五分の一を加えて、償いの責めを果たすべき相手に支払わなければならない。
5:8 もしその相手の人に、償いを受け取る権利のある親類がいなければ、その咎のために弁償されたものは【主】のものであり、祭司のものとなる。そのほか、その人のために宥めを行うための、宥めの雄羊もそうなる。
5:9 こうして、イスラエルの子らが祭司のところに携えて来るすべての聖なるものは、どの奉納物も祭司のものとなる。
5:10 聖なるささげ物は、人のもとにあればその人のものであるが、人が祭司に与えるものは祭司のものとなる。」

Bible Reference 聖書の記述

ツァラアト、漏出は伝染性の病でしたから、隔離しなくては全体に広がって重大なことになります。これらの人は本人も苦しんでいるのに、隔離されるのはかわいそうな気がします。しかし、だからといってそれをいい加減にはできないのが現実でもあります。

これは罪の現実を表わしているのです。罪をそのままにしておけば、必ず重大な問題が生じますし、何よりも聖なる神様の御名を汚すことになるのです。「わたしがそのただ中に住む宿営を、彼らが汚さないようにしなければならない。」と、主が言われる通りです。

「死体によって身を汚している者」も同様に、罪の現実を表わします。生命にあふれて生きることを求める神様は、死は悪であるということを人に徹底させる必要がありました。それで死体に触れる者は汚れると教えたのです。

以上は人の罪汚れと神様の聖を学ぶためですが、神様はそれだけのお方ではありません。このようなきよさを求められても、結局は心がツァラアトや死のようであった人間のためにイエス様が身代わりをなってくださいました。私たちが神の御国（宿営）から「追い出」されないように、イエス様が汚れた者とされ「追い出」されさばかれてくださったのです。

また悔い改めについても教えられています。「五分の一を加えて」とは、謝罪の意味が込められています。損をさせないのだから良いだろう…というのではないのです。何よりもそれは神様に対する謝罪でもあります。「その弁償された罪過のためのものは主のもの」とあるからです。私たちは罪を犯したとき、すなわち自分が原因で迷惑をかけてしまったとき、それは当事者とともに主に対して罪を犯したのだと知らなくてはなりません。

これらのことから、自分の罪・過ちへの対処として、主の目にかなった悔い改めを考えましょう。そしてそれを実行しましょう。イエス様の十字架がすでにあるので、悔い改める者には主が擁護してくださることを確信し、勇気を持ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

27日　木曜

民数

5:11 【主】はモーセにこう告げられた。
5:12 「イスラエルの子らに告げよ。もし人の
妻が道を外して夫の信頼を裏切り、
5:13 ほかの男が彼女と寝て交わり、そのこと
が夫の目から隠れていて、彼女が身を汚した
ことが見つからず、証人もなく、彼女が捕ら
えられないままであるが、
5:14 妻が身を汚していて、夫にねたみの心が
起こり、妻に対して憤る場合、あるいは妻が
身を汚していないのに、夫にねたみの心が起
こり、妻に対して憤る場合、
5:15 夫は妻を祭司のところに連れて行き、彼
女のために大麦の粉十分の一エパをささげ物
として携えて行きなさい。この上に油を注い
でも乳香を加えてもいけない。これはねたみ
のためのささげ物、咎を思い出させる、覚え
の分としての穀物のささげ物だからである。
5:16 祭司は、その女を進み出させ、【主】の
前に立たせる。
5:17 祭司は聖なる水を土の器に取る。そして
祭司は幕屋の床にある土のちりを取って、そ
の水に入れる。
5:18 祭司は女を【主】の前に立たせ、その女
の髪の毛を乱れさせて、その両方の手のひら
に、覚えの分としての穀物のささげ物、すな
わち、ねたみのためのささげ物を置く。一方、
祭司の手には、のろいをもたらす苦みの水が
あるようにする。
5:19 祭司は女に誓わせて、この女に言う。
『もし、ほかの男があなたと寝たことがなく、
またあなたが夫のもとにあるのに、道ならぬ
ことをして身を汚したことがないなら、あな
たは、のろいをもたらすこの苦みの水の害を
受けないように。
5:20 しかし、もしあなたが夫のもとにある
のに、道ならぬことをして身を汚し、夫以
外の男があなたと寝たのであれば――』
5:21 ここで祭司はその女にのろいの誓いを
立てさせて、その女に言う。『【主】があ
なたのももを痩せ衰えさせ、あなたの腹を
ふくれさせ、あなたの民のうちにあって、
【主】があなたをのろいと非難の的とされ
るように。
5:22 また、のろいをもたらすこの水があな
たのからだに入って腹をふくれさせ、もも
を痩せ衰えさせるように。』そしてその女
は、『アーメン、アーメン』と言う。
5:23 祭司はこののろいを書き物に書き、そ
れを苦みの水の中に洗い落とす。
5:24 のろいをもたらすこの苦みの水を彼女
に飲ませると、のろいをもたらす水が彼女
の中に入って、苦くなる。
5:25 祭司は女の手から、ねたみのためのさ
さげ物を取り、この穀物のささげ物を
【主】に向かって揺り動かし、それを祭壇
に近づける。
5:26 祭司は、穀物のささげ物から、覚えの
分としてひとつかみを取り、それを祭壇で
焼いて煙にする。その後で女に先の水を飲
ませる。
5:27 その水を飲ませたとき、もし、その女
が夫の信頼を裏切って身を汚していれば、
のろいをもたらす水はその女の中に入って
苦くなり、その腹はふくれて、そのももは
痩せ衰える。その女はその民の間で、のろ
いの的となる。
5:28 しかし、もし女が身を汚しておらず、
きよければ、罰を免れて、子を宿すように
なる。
5:29 これが、ねたみについてのおしえで
ある。女が夫のもとにあるのに、道なら
ぬことをして身を汚したり、
5:30 または夫にねたみの心が起こって、
自分の妻に対して憤ったりする場合には、
その妻を【主】の前に立たせる。そして
祭司は彼女にこのおしえのすべてを行う。
5:31 夫に咎はなく、妻が自分の咎を負う
のである。」

Bible Reference 聖書の記述

汚れた行為が疑われる女性に対する規定です。何か不気味で恐いような祭司の働きですが、しかし罪を犯していない者にとっては何でもないことです。むしろ夫の疑いから守られるのです。

この教えから分るように、人には知られないことでも主は知っておられて、明らかにされます。試されたときに、「害を受けない」でむしろ「子を宿す」ような祝福をいただけるようでありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

28日　金曜

民数

6:1 【主】はモーセに告げられた。
6:2 「イスラエルの子らに告げよ。男または女が、【主】のものとして身を聖別するため特別な誓いをして、ナジル人の誓願を立てる場合、
6:3 その人は、ぶどう酒や強い酒を断たなければならない。ぶどう酒の酢や強い酒の酢を飲んではならない。また、ぶどう汁をいっさい飲んではならない。ぶどうの実の生のものも、干したものも食べてはならない。
6:4 ナジル人としての聖別の全期間、彼はぶどうの木から生じるものはすべて、種も皮も食べてはならない。
6:5 彼がナジル人としての聖別の誓願を立てている間は、頭にかみそりを当ててはならない。【主】のものとして身を聖別している期間が満ちるまで、彼は聖なるものであり、頭の髪の毛を伸ばしておかなければならない。
6:6 【主】のものとして身を聖別している間は、死人のところに入って行ってはならない。
6:7 父、母、兄弟、姉妹が死んだ場合でも、彼らとの関わりで身を汚してはならない。彼の頭には神への聖別のしるしがあるからである。
6:8 ナジル人としての聖別の全期間、彼は【主】に対して聖なるものである。
6:9 だれかが突然、彼のそばで死んで、その聖別された頭を汚した場合には、身をきよめる日に頭を剃る。すなわち七日目に剃る。
6:10 そして八日目に、山鳩二羽か家鳩のひな二羽を、会見の天幕の入り口にいる祭司のところに持って行く。
6:11 祭司はその一羽を罪のきよめのささげ物とし、もう一羽を全焼のささげ物として献げ、死体によって招いた罪を除いて彼のために宥めを行い、その日に彼の頭を聖なるものとする。
6:12 その人は、ナジル人としての聖別の期間を、改めて【主】のものとして聖別する。そして一歳の雄の子羊を携えて行き、代償のささげ物とする。それ以前の日数は、彼の聖別が汚されたので無効になる。

ナジル人とは聖別されたものという意味で、当時からも、ある人々は自らをそのようにして、主にささげたということが分ります。これはこの世的には何も得があるわけではないのですが、主のみこころに感動を覚えた者は、そのように主に自分自身をささげることが喜びとなるのです。

これは神様の永遠の尺度と無限の愛が分ったときの、自然の応答でもあります。もしも自分自身の内に、献身の思いが与えられたなら、この世では理解されないとしても、主のお心に従って行って間違いはありませんがら、確信を持ちましょう。

主に自分自身をささげて、お役に立ちたいと思うなら、「酒」よりも聖霊に満たされることが必要です。神様との交わりを妨げると思われるものを排除しましょう。

また、人から違って見えてもひるむ必要はありません。ナジル人が「髪」をのばし続けたように、聖別されていることが分るのも大切なことです。その覚悟をしましょう。

また死から全く離れましょう。すなわち、永遠の命を信じない考え、神の救いに反する生き方や交わりとは、一線を画してこれらに同化しないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

29日　土曜

民数

6:13 これはナジル人についてのおしえである。ナジル人としての聖別の期間が満ちたときは、彼を会見の天幕の入り口に連れて行く。
6:14 彼は次のささげ物を【主】に献げる。すなわち、全焼のささげ物として傷のない一歳の雄の子羊一匹、罪のきよめのささげ物として傷のない一歳の雌の子羊一匹、交わりのいけにえとして傷のない雄羊一匹、
6:15 さらに穀物のささげ物として、種なしパン一かご、油を混ぜた小麦粉の輪形パン、油を塗った種なしの薄焼きパンを、それぞれに添える注ぎのささげ物とともに献げる。
6:16 祭司はこれらのものを【主】の前に近づけ、罪のきよめのささげ物と全焼のささげ物を献げる。
6:17 交わりのいけにえとして雄羊を、一かごの種なしパンとともに【主】に献げ、さらに祭司は穀物のささげ物と注ぎのささげ物を献げる。
6:18 ナジル人は会見の天幕の入り口で、聖別した頭を剃り、その聖別した頭の髪の毛を取って、交わりのいけにえの下にある火にくべる。
6:19 ナジル人がその聖別した髪の毛を剃った後、祭司は煮えた雄羊の肩と、かごの中の種なしの輪形パン一つと、種なしの薄焼きパン一つを取って、ナジル人の手の上に載せる。
6:20 祭司はこれらを奉献物として【主】の前で揺り動かす。これは聖なるものであって、奉献物の胸肉、奉納物のもも肉とともに祭司のものとなる。その後で、このナジル人はぶどう酒を飲むことができる。
6:21 これがナジル人についてのおしえである。ナジル人としての聖別に加えて、その人の力の及ぶ以上に【主】へのささげ物を誓う者は、ナジル人としての聖別のおしえに加えて、その誓った誓いのことばどおりにしなければならない。」
6:22 【主】はモーセにこう告げられた。
6:23 「アロンとその子らに告げよ。『あなたがたはイスラエルの子らに言って、彼らをこのように祝福しなさい。
6:24 【主】があなたを祝福し、あなたを守られますように。
6:25 【主】が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。
6:26 【主】が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。』
6:27 アロンとその子らが、わたしの名をイスラエルの子らの上に置くなら、わたしが彼らを祝福する。」

ナジル人として自分が聖別されると、この世とは別の霊的存在になったような気持ちになったことでしょう。それは誰にでも時には必要なことで、滅び行くこの世から離れて全く神の領域に入ることは、信仰のすばらしい体験になるのです。
現代でも聖会や弟子訓練など…もちろん礼拝でもそのような信仰の体験を求めることが必要です。ナジル人の条件は必ずしも生活の場を変える必要はありません。つまり日常の中で神に聖別されることができるということです。神を信じない社会に惑わされずに、神の領域に入って信仰体験をしたいとうクリスチャンも多いことでしょう。特別な祈りの期間もすばらしいものです。教会はそのためにも存在しています。
ただし、ナジル人のような特別な期間を全うしたからといって、完全な人になるのではありません。ここでは主へのささげものによって、そのことを教えています。
すなわち動物のささげものは罪の身代わりを表わします。自分自身の罪を認めて、小羊なるイエス様の救いを常に感謝しましょう。また穀物のささげものは謙遜を表わします。霊的な体験をした人は、以前よりも謙遜になるのです。もしも信仰体験を自慢するような言動があれば、その体験は神様によるものではないのかもしれません。自己吟味が必要です。
22 節からは祝福の祈りであり、これもまた祝祷と位置づけられます。「アロンとその子らに」祝祷が託されたように、それは神から与えられた特別な権威によって成り立っています。その権威とは民を強いて動かすものではなく、祝福して幸せにするものです。ちょうどイエス様の権威が、人類の救いと永遠の幸いに導くのと同じです。
祭司にこの権威が与えられたのは、祝福による一致が民に実現するためでした。このように教会も一致とは祝福とともにあるのです。礼拝の祝祷も神によって権威が与えられた者により、祝福とともにある一致のためにあります。主は「わたしは彼らを祝福しよう。」と約束なさっていますから、その信仰と理解で祝祷を、週ごとに、しっかりと受けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

30日　日曜

民数

7:1 モーセは幕屋を設営し終えた日に、これに油注ぎをして、聖別した。そのすべての器具と、祭壇およびそのすべての用具にもそうした。彼がそれらに油注ぎをして聖別したとき、
7:2 イスラエルの族長たち、すなわち一族のかしらたちが近づいた。彼らは部族の長たちで、登録に当たった者たちである。
7:3 彼らは自分たちのささげ物を【主】の前に持って来た。それは覆いのある台車六台と雄牛十二頭で、族長二人につき車一台、一人につき牛一頭であった。彼らはこれを幕屋の前に引いて来た。
7:4 すると【主】はモーセに告げられた。
7:5 「会見の天幕の奉仕に使うために彼らからこれらを受け取り、レビ人にそれぞれの奉仕に応じて渡せ。」
7:6 そこでモーセは台車と雄牛を受け取り、それをレビ人に与えた。
7:7 ゲルション族には、その奉仕に応じて台車二台と雄牛四頭を与え、
7:8 メラリ族には、祭司アロンの子イタマルの監督のもとにある彼らの奉仕に応じて、台車四台と雄牛八頭を与えた。
7:9 しかしケハテ族には何も与えなかった。彼らの聖なるものに関わる奉仕は、肩に担いで運ぶことだったからである。

幕屋は神との会見の場であるので、この世のものとは聖別しなくてはなりません。その聖別は「油注ぎ」とありますが、それは聖霊を表すものです。そしてこれは私たちの礼拝も同じで、聖霊によって油注がれてこそ、礼拝が成り立つのです。
礼拝はただプログラムをこなせば良いというのではありません。主のみわざが現れることが重要です。それは聖霊による、救い、きよめ、癒し、なぐさめ、希望、そして悪霊への勝利です。聖霊を求めましょう。
ここではたくさんのささげものがあります。それら一つ一つを、主はすべて覚えていてくださいます。私たちも積極的に主の聖なることを表すためにささげましょう。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？